



EcoTruxure™
Innovation At Every Level

【データセンター導入事例】 使えるねっと株式会社 様

ビジネスの成長を支えるシステム基盤にシュナイダーエレクトリックのUPSを採用
10年間トラブルなしの信頼性と段階的なバッテリー容量増設が可能な柔軟性で
データセンターの安定運用とクラウドサービス拡大を強力に支援

schneider-electric.com/ecotruxure

Life Is On

Schneider
Electric



使えるねっと株式会社
代表取締役社長 CEO

ジェイソン・フリッシュ 氏

長野市でクラウドホスティングやクラウドソリューションサービスを提供する使えるねっと株式会社（以下、使えるねっと）は、自社データセンターの開設を機にサーバーの運用環境を大幅に刷新し、サーバー集積度の向上と電源の安定化を確保するため「Symmetra PX 40kVA」を採用した。また、東日本大震災後にBCP（事業継続計画）やDR（災害復旧）への関心が集まる中、大手企業を中心にクラウドバックアップサービスの契約が急増。新たに「Symmetra PX 160kVA」を追加導入することでビジネスの拡大に合わせたUPS容量の増強を負担なく実施することが可能になった。

背景

- 自社データセンター建設によるサーバー運用環境の大幅な刷新
- 天候や予期せぬ事故による停電や瞬断によるサーバーダウンタイムの最小化
- ストレージ急増によるUPSインフラの大幅な強化

導入コンポーネント

- Symmetra™ PX 40kVA × 2セット
- Symmetra™ PX 160kVA (32kVA/32kW) × 1セット
- NetShelter™ SX × 3本
- Switched Rack-Mount PDU × 18本
- InRow™ RP DX × 1セット

導入効果

- システム内部での冗長化とバッテリー容量の増設が容易なUPSを導入しサーバー環境の高集積化に対応した柔軟かつ安定的な電源を確保
- 急速なビジネス拡大に対応するため、より大型のモジュール型三相UPSを追加導入しつつも、段階的投資を可能にするメリットを活用して経営的負担を軽減
- 高い信頼性で定評のあるシュナイダーブランドと、それを裏付ける統一した製品デザインが、データセンターを見学するお客様の安心感を醸成し、ビジネスへの好影響を促進

必要な時に必要なリソースを調達する考えに 非常によくマッチするシュナイダーのUPS

1999年にレンタルサーバー事業で創業した使えるねっとは、2002年の会社設立以来、長野市を拠点にデータセンターを運営し、低コストかつ高機能なサービスを提供することで事業を堅実に拡大してきた。2005年には他社に先駆けてクラウドサービスを開始し、2009年からは専用サーバーと同等のハイエンドVPS（仮想専用サーバー）を低価格で提供するなど、常に先駆的なサービスを打ち出しながら、顧客視点での差別化を図ることが成長の原動力となっている。現在は、レンタルサーバー、クラウドサーバーなどのホスティング事業のほか、クラウドバックアップ、ファイル同期・共有、クラウド型WAF（Webアプリケーションファイアウォール）などの幅広いニーズに対応可能なサービスを、100社以上の販売代理店を通じてサービスを提供し、業界で影響力のある地位を築いている。

その使えるねっとの20年におよぶデータセンター運用の発展と革新を、インフラ面で支えてきたのがシュナイダーのUPSだった。代表取締役社長 CEOのジェイソン・フリッシュ氏は、当時を振り返り次のように語る。

「2004年にアメリカから長野にデータセンターの拠点を移したのを機に、当時のSmart-UPS RT 1500を導入したのがシュナイダー製品との最初の出会いです。その後、ビジネスの拡大に合わせて、Smart-UPS RTシリーズの5000～10000の各モデルを段階的に活用していきました。シュナイダーのUPSはラインナップが多く、サーバーの増加に合わせて適切な容量を導入できるので、“必要な時に必要なリソースを調達する”という当社のビジネスポリシーと非常によくマッチしていました」

システム内部での冗長化構成が可能で 容量増設が容易なSymmetra PXを選択

当時、他社もまだ着手していない仮想化技術をいち早く導入した同社は、効率的な投資で顧客満足度の高いサービスを提供するため、VPSの集積度向上と付加サービスの充実に取り組み、ラックマウントサーバーの導入を積極的に推進。2008年には、長野市内に自社のデータセンターを建設し、サーバーの運用環境を大幅に刷新した。その集積度の向上によるサービスレベルの維持と、電源の安定化確保のため、新たにモジュール型三相UPSの「Symmetra PX 40kVA」を採用するとともに、ラック内サーバーの負荷に応じて高効率な冷却を実現する「InRow RP DX」も導入した。

「大手のお客様が増え、クリティカルなシステムをお預かりするようになっていたため、システム内部での冗長化構成が可能で、各機能のモジュール交換と容量増設が容易なSymmetra PXを選択しました」とフリッシュ氏は説明する。

その後、使えるねっとのビジネスは大きなターニングポイントを迎える。きっかけとなったのは、2011年3月の東日本大震災だった。震災前から新たなビジネスの柱として、クラウドバックアップサービスの立ち上げを準備していた同社は、地震発生の3ヶ月後にサービスを開始したところ、大

手企業からの問い合わせが相次ぐようになったという。

「BCP（事業継続計画）やDR（災害復旧）目的のバックアップは、コストよりもデータセンターの立地が重要で、地盤の安定した長野市は国が定める地震防災対策強化地域には該当しないため、当社のサービスが注目されたようです」（フリッシュ氏）

好評のクラウドバックアップサービスをきっかけに、その他のサービスの需要も向上し、新規の契約も記録的に増加したほか、バックアップサービスを提供するパートナーベンダーへのOEMも増加するなど、ビジネスは順調に推移した。

データセンターの見学者に安心感を与える シュナイダー製品の統一されたデザイン

一方、好調さの裏でストレージ量は急激に増え、数ヶ月に1本のペースでラックを増設する状況が続くなど、UPSを含めたインフラを大幅に強化する必要に迫られていったという。

「UPS選定においては他社製品も検討はしたものの、結果的にSymmetra PXシリーズ以外に選択肢は考えられませんでした」とフリッシュ氏は断言する。10年間稼働し続けても1度もトラブルがなく、導入もスムーズで、段階的な容量アップが可能な柔軟性を高く評価していたからだ。

そこで使えるねっとは、既存のSymmetra PX 40kVAはそのまま継続運用し、追加導入する形で新たに大型の「Symmetra PX 160kVA」を導入。2017年1月に、まずは最小単位の32kVAでスモールスタートを開始した。

「当初はもっと大きなサイズのSymmetra PXを検討していましたが、シュナイダーの営業担当者の迅速かつ確かなコンサルティングのおかげで、計画を一部見直し、結果的にリーズナブルな投資に押さえることができました。そうした商売を度外視した親身なアドバイスは経営的にも助かります」とフリッシュ氏は述べる。

また、Symmetra PXの活用は、主に3つのメリットをもたらしたとフリッシュ氏は話す。1つ目は、電源回りのバックアップがより強化され、安定した運用が可能になったこと。電力供給が安定している日本でも、天災や予期せぬ事故による停電や瞬断への備えを疎かにすると利益損失や信用失墜などを招くという。「データセンタービジネスではわずか10分間でもサーバーが停止すればその後のダメージは計り知れません。UPSは利益を生まないコストと考えられがちですが、私は非常に重要で有益な投資であると考えています」

2つ目は、お客様の安心感を醸成できたこと。使えるねっとのビジネスが注目されるにつれ、データセンターの見学を希望するお客様も増えていったという。「シュナイダーは信頼性のあるブランドとして知られており、UPSもラックもそれを裏付けるデザインに統一されているため、見ていただくだけでお客様に与える安心感は他社の製品とは大きく異なります」

3つ目は、サーバーの増加に合わせて容量も柔軟に拡張できること。今回導入したSymmetra PX 160kVAも順次容量を増やし、32kVAのスモールスタートから半年ほど経過した時点で48kVAに拡大している。キャパシティは大きいので、容量の枯渇を気にする必要がなくなったという。「ビジネスの拡大に合わせてUPSの容量をマイベースに増やせるのは、経営的にも精神的にも負担が少なく、本来の業務に集中できるので、新たな



長年、使えるねっとのデータセンター管理を担ってきた、同社 運用部 宮川 幸司氏と、新たに導入した「Symmetra PX 160kVA」

サービスを考える余裕も生まれます」

使えるねっとのサービスの好調さを支える シュナイダーの安心と信頼の技術

特に大掛かりな宣伝を行っていないにも関わらず、使えるねっとの各種サービスはその手軽さが人気を呼び、大手企業からの問い合わせも増えているほか、お客様がお客様を紹介してくださるような好循環も始まっているという。「その好調さを支えているのも、シュナイダーの安心と信頼の技術であると確信しています」とフリッシュ氏は評価する。

ただ、このままビジネスが拡大していけば、およそ半年で需要はSymmetra PXの最大容量の半分まで達する見込みだ。また、来年にはデータセンター自体の拡張も必要となり、それに合わせて新たなUPSの増設はもちろん、空調などファシリティの強化も検討しなければならない。フリッシュ氏は、今後も引き続きシュナイダーのUPSやラック、クーリングシステムの導入も視野に入れるほか、監視・セキュリティシステムやデータセンター管理ソリューションなど、サーバールームに必要なインフラ要素もそれらと連携する形で運用できるか検証していく考えだという。

「私はこれまでも、そしてこれからも、シュナイダーのことを一緒に成長していける重要なパートナーだと思っています。当社のビジネスを今後も力強くサポートしてもらえよう期待しています」とフリッシュ氏は語る。

その思いに応えるため、シュナイダーは今後も最新の技術ときめ細かなサポート体制で、多くのお客様に選ばれる使えるねっとのビジネスを支え続けていく考えだ。

“UPSは利益を生まないコストと考えられがちですが、私は非常に重要で有益な投資であると考えています”

使えるねっと株式会社
代表取締役社長 CEO
ジェイソン・フリッシュ氏

使えるネット 導入事例（2015年度版）



ダウンロードはこちらから

http://catalog.clubapc.jp/pdf/cr/tsukaeru-net_1509.pdf



製品カタログ一覧
<http://catalog.clubapc.jp/>



導入事例一覧
<http://catalog.clubapc.jp/#09>



シュナイダーエレクトリック ジャパングループ 会社案内
http://catalog.clubapc.jp/company_profile.pdf



シュナイダーエレクトリック ウェブサイト サイトナビゲーター
<http://www.ups-navi.jp/navi/>

使えるねっと株式会社 様 企業紹介

- 事業概要：1999年創業。長野市に本社を置き、自社運営のデータセンターによる格安かつ高機能なサービスで事業を拡大。現在は、レンタルサーバー、クラウドサーバー、VPS（仮想専用サーバー）、専用サーバーなどのホスティング事業のほか、クラウドバックアップ、ファイル同期・共有、仮想デスクトップアプリケーション、クラウド型WAF（Webアプリケーションファイアウォール）など多様なサービスを提供。また、オーストラリア、インドネシア、シンガポール、ベトナムにおいても提携によるデータセンタービジネスを展開中。
- 所在地：〒380-0836 長野県長野市南県町 1082 KOYO 南県町ビル3階
- 設立：1999年7月1日
- URL：<https://www.tsukaeru.net>

シュナイダーエレクトリック株式会社

〒108-0023
 東京都港区芝浦2-15-6 オアーズ芝浦MJビル
 TEL：03-5931-7500

schneider-electric.com/jp
apc.com/jp

Jul 2018

©2018 Schneider Electric. All Rights Reserved. Life Is On Schneider Electric is a trademark and the property of Schneider Electric SE, its subsidiaries and affiliated companies. All other trademarks are the property of their respective owners.

Jul2018-TN

Life Is On

Schneider
Electric